

様式第4号（第5条関係）

平成28年3月31日

古賀市議会議長

議員名 姉川 さつき



平成27年度政務活動費収支報告について

古賀市議会政務活動費の交付に関する条例第6条第1項に基づき、別紙のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

- 1 平成27年度政務活動費収支報告書
- 2 添付書類
 - (1) 政務活動費収支報告書（別紙1）
 - (2) 政務活動費支出内訳書（別紙2）
 - (3) 領収書又はこれに準ずる書類

別紙1

平成27年度 政務活動費収支報告書

議員名 姉川さつき

1 収入

政務活動費 100,000 円

2 支出

項目	金額(円)	支出内訳書の番号
調査研究費		
研修費	109,660	1, 2
広報費		
広聴費		
資料作成費		
資料購入費		
事務費		
支出合計		109,660 円

3 残額 Δ 9,660 円

別紙2

平成27年度 政務活動費支出内訳書

番号	期 間	内 容	経費 (円)	備考
1	H27年10月28日 ～10月30日	「市町村アカデ ミー」議員研修	48,230円	
2	H27年11月18日 ～11月19日	全国市議会議長 会研究フォーラ ムIN福島	61,430円	

※研修及び視察には報告書を添付のこと

参考様式

支出内訳書の番号 <u>1</u> 調査研究報告書	
1 名称	市町村アカデミー議員研修会 「政策立案コース」
2 目的	地域での高齢世代対応、公共サービスの在り方、家族支援等の、実践的な演習と討議を学ぶ。
3 実施時期	平成 27 年 10 月 28 日～10 月 30 日（2 泊 3 日）
4 実施場所	千葉県千葉市「市町村アカデミー」
5 参加者	姉川さつき、岩井秀一、高原伸二、井之上豊、平木尚子、結城弘明
6 その他	

視察報告書

平成 28 年 3 月 31 日

○視察日

平成 27 年 10 月 28 日（水）～10 月 30 日（金）

○研修先

千葉県千葉市美浜区「市町村アカデミー」

○研修対応者

（ふるさと財団）地域再生マネージャー 齊藤 俊幸氏
（新潟県立大学）准教授 田口 一博氏

○視察目的

地域での高齢世代対応～公共サービスのあり方、家族支援等～の政策立案コースに参加し、実践的な演習や討議を行うことで、議員の資質を高める。

○参加者

姉川さつき、岩井秀一、高原伸二、井之上豊、平木尚子。

○研修内容

10 月 28 日（水）

13：00	～	開講式
13：10	～	開講オリエンテーション
14：25～16：40		地域資源の再発見と地域づくり（講義）
16：40～17：40		班編成、役割分担、テーマ決定
18：30～		交流会

（講義）地域再生マネージャー（ふるさと財団）

齊藤 俊幸氏

日本は 2008 年をピークに人口減少に入り、2050 年には 9700 万人と推定され、さらに 2100 年には 5000 人を割り込んでくるという予測がある。加えて、地方と東京圏の経済拡大等が、地方から東京圏への一極集中を招いている。首都圏への人口集中度が約 3 割という割合は、諸外国と比較しても圧倒的に高い数字である。地方の若い世代が、過密で出生率が極めて低い東京圏に

流失することにより日本全体の少子化に拍車がかかっている。人口減少は、消費市場の規模縮小のみならず、人手不足など地域社会の様々な基盤の維持を困難としている。地方創生は、いうまでもなく「ひと」が中心であり、長期的には地方で「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくる流れを確かなものとする必要がある。「格差是正」から「集中と選択」の時代へと移り、更には地域間競争の時代へ。地域は自主・自立的な取り組み、ナンバーワンではないオンリーワンの存在を見出し、知恵と工夫を競うアイデアを展開していかなければならない。

○班活動

「地域での高齢世代対応」をテーマとする5人のB班に配属され、座長、パソコン、発表者等を最初に決めました。テーマは漠然としたものではなく、どこかの市や町をモデルにしたほうが良いとの指導により、話し合いの中で「古賀市の花鶴3丁目福祉会の取り組み」に決定しました。発表時の質問に対する答弁は私が担当をすることにまりました。政策名、サブテーマ、サブテーマについての現状と課題、政策の目的と目標、政策の実施方法、政策の効果、政策実施に必要な資源。7項目について十分協議し、要点を明日取りまとめることを申し合わせました。

○10月29日(木)

9:00 ~ 10:35 (講義) 議会における政策立案の考え方
10:50 ~ 17:00 政策立案演習(討議・指導)
17:00 ~ 討議・原稿提出・リハーサル

(講義) 議会における政策立案の考え方

新潟県立大学 准教授 田口 一博氏

政策とは手段ではなく目的である。何をしたいのではなく、どのようにしたいのか。これからは、行政や議会における自治体政策ではなく、会社・事業者・住民など、町が一体となった公共政策へ移行すべき。町の中にこそ専門家がいる。人的資源を生かした町づくり。わが町の特性を生かした町づくりが大事。

○班活動

班のメンバーは、栃木県高根沢町、広島県尾道市、鹿児島県阿久根市、宮城県大和町の議員に古賀市の自分を加えて5人。公共交通が十分活用できない地域の買物難民や、高齢化が進み担い手不足などの地域力の低下の問題等、

具体的に課題を挙げて、どの様な手法が高齢者にとって自分の地域で暮らし続けることができるのか等、対策の目的について十分討議をおこないました。

○10月30日（金）

9：00～12：00

政策立案演習の成果について、12の班が5分間の発表を行いました。

2班ごとに同テーマなので、2班の発表が終わるごとに質疑応答の時間を持ちました。私達の班には沢山質問が寄せられました。質疑が終了した時点で、講師の田口先生のコメントが入るという手順で進行されました。

5分間という短い時間でしたが、発表をわかりやすくするためにマジックで大書きしたパネルを使ったり、一番伝えたいことを短い言葉で強調したり、各班それぞれに工夫が凝らされており、プレゼンテーションの良い勉強になりました。すべての発表の後に先生より講評を頂き、閉会式の中で修了証書を貰い解散となりました。

○まとめ

政策立案コース2泊3日という研修は初めての体験でした。

- ① 地域での高齢世代対応
- ② 地域での若年世代対応
- ③ 人的資源を活かしたまちづくり
- ④ わがまちの特性を活かしたまちづくり

上記4項目のテーマに12班が振り分けられての政策立案でした。

内容も非常に具体的で、今後の古賀市の政策として活かしていきたいと思えるものも沢山ありましたが、議員として現状を知りヒアリングをし、政策の目的を定めてどのように実施するのかということについてプレゼンテーションを行うという、議員にとって必要なスキルを学ぶことができました。

この研修会で学んだことを、議会活動の中でしっかり活かしていきたいと思いました。

[政策篇]

クラス名：市町村議会議員特別講座Ⅱ（政策立案コース）

平成27年10月28日（水）～10月30日（金）

担当教授：
担当主査：

時 間 割

日	午 前			午 後		
	9:00～	9:25～	10:35～	10:50～	12:00～	13:00～
10月28日 (水)				13:00～ 開講式 200	13:10～ 13:40 開講オリエン テーション 200	13:50～16:25 地域資源の再発見と地域づくり（講義） 200 地域再生マネージャー （ふるさと財団） 200 16:40～17:40 政策立案演習 （討議） 200, 201A～204B, 301～304 18:30～交流会 200, 101, 102, 201A～ 204B, 301～304 フレンドリーホール 政策立案演習（討 議）
10月29日 (木)	議会における政策立案の考え 方（講義） 200			13:00～ 開講式 200	13:10～ 13:40 開講オリエン テーション 200	13:50～16:25 地域資源の再発見と地域づくり（講義） 200 地域再生マネージャー （ふるさと財団） 200 16:40～17:40 政策立案演習 （討議） 200, 201A～204B, 301～304 18:30～交流会 200, 101, 102, 201A～ 204B, 301～304 フレンドリーホール 政策立案演習（討 議）
10月30日 (金)				12:00～ 12:10 修了式 200		

※教室略号 200：200教室（その他の数字は演習室番号）

※10月28日：オリエンテーションの際には、「研修のしおり」及び「時間割」を必ず持参して下さい。

市町村アカデミー研修生名簿

市町村議会議員特別講座Ⅱ (政策立案コース)

平成27年10月5日～10月9日 クラスカラー：青

教授
主査

席番	都道府県	市区町村名	氏名(漢字)	所属職名	委員会名	クラス役員	眞習班
26	山梨県	甲斐市	金丸 幸司	議員	厚生環境委員会		H
27	長野県	小諸市	相原 久男	議長			F
28	長野県	小諸市	林 稔	副議長	経済建設常任委員会		H
29	長野県	小諸市	依田 善典	議員			A
30	長野県	小諸市	田中 寿光	議員	経済建設常任委員会		K
31	長野県	小諸市	竹内 健一	議員			C
32	長野県	千曲市	大澤 洋子	議員	建設経済常任委員会		D
33	兵庫県	播磨町	小原 健一	議員	厚生教育常任委員会		E
34	広島県	尾道市	加納 康平	議員	民生委員会		B
35	広島県	東広島市	重森 佳代子	議員	文教厚生		G
36	広島県	東広島市	北林 光昭	議員	総務委員会		H
37	広島県	熊野町	大瀬戸 宏樹	議員	総務厚生委員会、議会運営委員会		F
38	徳島県	阿波市	川人 敏男	議員	総務委員会	代表幹事	C
39	徳島県	阿波市	松永 渉	議員	産業建設常任委員会		D
40	福岡県	古賀市	結城 弘明	議長			L
41	福岡県	古賀市	岩井 秀一	議員	総務常任委員会		A
42	福岡県	古賀市	井之上 豊	議員	総務委員会		I
43	福岡県	古賀市	高原 伸二	議員	市民建産常任委員会		J
44	福岡県	古賀市	姉川 さつき	議員	市民建産委員会		B
45	福岡県	古賀市	平木 尚子	議員	文教厚生委員会		F
46	佐賀県	小城市	松並 陽一	議員	総務常任委員会		A
47	熊本県	山鹿市	服部 香代	議員	市民福祉常任委員会		K
48	宮崎県	日向市	松葉 進一	議員	産業建設水道常任委員、総合防災対策特別委員会、公共施設マネジメントに関する調査特別委員会		L
49	宮崎県	串間市	木代 誠一郎	議員	産業建設常任委員会、観光振興・まちづくり調査特別委員会		I
50	宮崎県	三股町	福田 新一	議員	総務産業常任委員会		J

政策立案演習 班別テーマ&使用教室一覧

班	演習テーマ	使用教室
A	地域での高齢世代対応 —公共サービスのあり方、家族支援等—	201A
B	〃	201B
C	地域での若年世代対応 —就労・結婚・子育て支援等—	202A
D	〃	202B
E	〃	203A
F	〃	203B
G	人的資源を活かしたまちづくり —コミュニティの活性化、人材育成等—	204A
H	〃	204B
I	わがまちの特性を活かしたまちづくり —産業・歴史文化・地理等—	301
J	〃	302
K	〃	303
L	〃	304

参考様式

支出内訳書の番号 <u>2</u>	
調査研究報告書	
1 名称	全国市議会議長会研究フォーラム I N福島
2 目的	・震災からの復興と、議会の役割。 ・地方創生の課題と自治体の役割を学ぶ。
3 実施時期	平成 27 年 11 月 18 日～11 月 19 日 (1 泊 2 日)
4 実施場所	福島県福島市春日市「福島県文化センター」
5 参加者	姉川さつき、岩井秀一、高原伸二、結城弘明
6 その他	

○研修内容

11月18日(水)

13:20 ~ 第一部 基調講演 「大震災からの復興と備え」
五百旗頭 真 熊本県立大学理事長

「世界一の地震国」である日本にとっても、マグニチュード9.0という観測史上、類のない凄まじい地震であった。その後、復興構想会議の議長として専門家の方々に、イギリスで東日本大震災の教訓について話をする機会があった。圧死、倒壊がほとんどなかったことに加え、被災3県において新幹線が上下10本、270キロで走っていたが、ひとつの脱線事故も負傷者も出さず、全て安全に止まったと言うと、識者達は皆知っていてすでにワールドフェイマスであった。ワールドバンク、世界銀行の報告書の「東日本大震災の教訓」という冊子が出版されている。その中に、日本列島というのは2千年にわたり地震災害に苦勞し、それに対応するノウハウを蓄積してきた。「釜石の奇跡」などである。その日本であればこそこの程度の犠牲で済んだ。他の国であればこの程度では済まなかったであろうと書かれている。津波については逃げるしかない。自助しかない。ところが地震などの災害は共助が決定的である。コミュニティで助け合えるかだ。ある市の地区で多くの方が生存救出されたところと、まったくなされなかったところとの差が大きかった。その差は、地域の祭りなどの共同作業があるかどうかで、人々の絆や結びつきがあると助け合うことができる。阪神・淡路大震災で警察、消防、自衛隊が約6千人の人を生存救出したが、その4倍の人が隣近所の人に救出されている。安心・安全のためにも、共助が大事であり、コミュニティづくりをすべきである。

14:40 ~ 第二部 <パネルディスカッション>

16:40

「震災復興・地方創生の課題と自治体の役割」

震災復興の現状と課題、地域の活性化、再生、創生、地方自治体や、地方議会が求められるもの、役割についてなどをテーマとしてパネルディスカッションが行われました。

大滝氏 震災から7.8割程度復興回復をしているが、一般的に言えば全国の農業、漁業、水産業、加工業は震災の前から問題を抱えていた。

役重氏 災害が起きてからではなく、平時から人が顔を合わせて話し合い、その結果をどう行政と繋いでいくか…を、訓練しておくこと必要。

山下氏 これは復興にならないのではないかと疑問が湧くものもある。本来の復興とは、誰のための復興なのかを問うことも大切。

金井氏 いかに関東大震災からの回復を忘れないでいられるか、息の長い取り組みが求められている。

高木氏 地域社会を支えてきた町内会や隣組など、コミュニティの存続に影響が出ていることが課題。

(まとめ)

- ・地域の真の計画は、職員と住民、議会とが知恵を出し合って作る。ぶれずに中長期的で、50年先まで見据えた戦略的な作戦を立てなければならない。
- ・議会と大学とが連携や協定を結び、共同で行政課題を調査・研究することも効果的である。
- ・最後は自分達の事は自分達で考え、課題に向かって行く。地域の民主主義をより深めていくために、最前線にいる議員は頑張らなければならない。

11月19日(木)

8:30 開場

9:00 第4部 課題討議 「震災復興と議会～現場からの報告」

- ・コーディネーター 河村 和徳氏 東北大学情報科学研究科准教授
- ・事例報告者 伊藤 明彦氏 陸前高田市議会議員
- 熊谷 伸一氏 気仙沼市議会議員
- 平田 武氏 南相馬市議会議員

伊藤氏 震災時に議会は災害対策本部に参加できなかった。その反省を踏まえ、災害対応指針、対策会議設置要綱、災害対策行動マニュアルを策定した。

熊谷氏 災害からの物理的な復興は徐々に進んでいるが、逆に心の復興が進まない。希望が持てるよう、心の復興を支えるのは議会の役目である。

平田氏 復興はスピードが何より大事。南相馬市は放射能の除染廃棄物の処理が進まない為、市民の帰還が進まないという悪循環で課題山積。

(まとめ)

- ・災害時の議会は、行政処理に忙殺される執行部に代わり地域の声を聞く役割りを果たし、住民と行政との合意形成の場として機能するべき。
- ・専門的な知識を被災地住民に届ける為にも、議会事務局の機能・政策形成能力の強化の旗振り役を議会は担わなければならない。

(感想)

今回の基調講演では、復興構想会議の議長である五百旗頭真氏の話が聞けたことは大きな収穫でした。マグニチュード9という、日本の観測史上において未曾有の地震・津波・原発事故の複合災害であり、今なお復興の道半ばですが、講演の冒頭に「事態は重い。安易な慰めの言葉は要らない。ただ復興構想会議の方針として、出来るだけ福島に寄り添い、決して見捨てない。国民として一緒する」という思いで進めてきたと言われました。福島の果物は本当に美味しい。福島は徹底した検査をして安全確認をしている。国民の皆さんに愛して貰いたい。これだけの災害に会っても、日本人の忍耐ある態度は非常に立派であり、先進技術と共に、諸外国でも大変高い評価を得ている等、温かい言葉に溢れており、国に復興のスピードが遅いと戦いつつも、被災地に寄りそう気持ちに感動しました。災害時の議会の役割も、甚大な被害を受けた自治体の議長達が、スライドや貴重な資料をもとに話して下さいました。災害時の指針や行動マニュアルは、前期の最終年度に古賀市も急ぎ作成したところです。その必要性もさることながら、議会事務局の体制と政策形成能力の強化と向上が必要だと、被災地の議長の皆さんが言われたのは意外でしたが、体験から専門的な知識が必要であったと推察され、大変勉強になりました。議会基本条例の中にも議会事務局に関しては記載があることから、今回の視察の内容も踏まえて協議をしていきたいと思いました。

第10回

全国市議会会議長会 研究フォーラム

福島

平成27年

11月18日(水)・19日(木)

13:00～(開場・受付12:00) 9:00～(開演)18:30

日時

場所

福島県文化センター

(福島市若菜町5-57)



第10回

全国市議会議長会 研究フォーラム



主催者挨拶



岡下 勝彦
全国市議会議長会会長
福島市議会議員

我が国が、将来にわたり活力ある社会を維持していくためには、人口減少に閉止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保していくことが極めて重要です。そのため、現在、国と地方は一致協力して地方創生に向けた取組を進めており、地方議会としてもそれぞれの地域において執行機関と連携し、様々な課題の展開に取り組みんでいるところがあります。また、人口減少・少子化の問題が国民的課題となった今、議会は住民代議機関として、地域での先頭に立ち、人口減少時代に的確に対応していく必要があります。

第10回目として、ここ福島市において開催いたしました本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、さらなる地方議会の機能強化を目指し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うとともに、議員同志の一層の連携を深めることを目的としております。

今回は、東日本大震災の被災地に御音が響く復興の取組も参考としながら、地方創生において地方自治体、とりわけ地方議会がどのような役割を果たすべきか、また同時に、福島市での開催であることから、災害対策や復興復興と地方議会の関係について広く討議してまいります。

各分野における専門家、識者の方々や議員の皆様方によって活発な議論が交わされ、実りある成果が得られますことを期待するとともに、皆様方の今後の活動の一助となることを祈念いたします。

プログラム

第1日目 11月18日

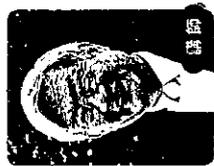
12:00	開場・受付
13:00	開会式
13:20	第1部 基調講演「大震災からの復興と備え」
14:20	休憩
14:40	第2部 パネルディスカッション 「震災復興・地方創生の課題と自治体の役割」
16:10	次期開催地挨拶
16:50	終了
18:00	第3部 意見交換会(後編)エリテ(復興文化センターから(仮))
19:00	終了

第2日目 11月19日

8:30	開場
9:00	第4部 課題討議 「震災復興と議会～現場からの報告」
11:00	閉会式
11:30	第5部 挨拶

基調講演

五百旗頭 真



1943年長岡生まれ、67年京都大学法学部卒業。69年京都大学大学院法学研究科修士課程修了。法学博士。広島大学助手・講師、助教授、神戸大学教授、防衛大学校校長等を歴任。2012年より現職。公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、神戸大学名誉教授、防衛大学校名誉教授、復興推進委員会委員長などを歴任。主な著書に「戦後日本外交史」(有朋閣)、「歴史としての現代日本」(日本経済新聞社)など。

パネルディスカッション

城本 勝



1957年熊本生まれ。一橋大学法学部卒業。82年NHK入局。報道記者を経て77年、NHK報道局長、NHK報道部長、NHK報道部長兼NHK報道局長などを歴任。報道、国際、選挙を中心に取材。広島県選出議員、参議院議員、地方自治体を中心に担当。12年から現職。15年から現職。NHK報道局長、日本記者連盟理事(現職)など。

大滝 精一



1952年長野生まれ。東北大学法学部卒業。NHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

彼重 眞喜子



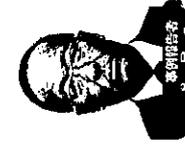
1967年生まれ。千葉大学法学部卒業。NHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

河村 利徳



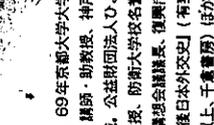
1971年福岡生まれ。98年東北大学法学部卒業。NHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

熊谷 伸一



1957年生まれ。80年東北大学法学部卒業。合併前の2001年5月から現職。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

山下 祐介



1969年福岡生まれ。九州大学法学部助手、福岡大学法学部助教授を経て現職。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

金井 利之



1967年長岡生まれ。東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て現職。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

高木 克尚



1955年生まれ。千葉大学法学部卒業。NHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

伊藤 明彦



1954年生まれ。77年東北大学法学部卒業。80年からNHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

平田 武



1948年生まれ。68年福島県立農業大学法学部卒業。合併前の1984年からNHK放送文化センターに入局。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。NHK放送文化センター報道部長、NHK放送文化センター報道部長兼NHK放送文化センター報道部長などを歴任。

番号 1

領 収 証

No 079201

姉川 さつき 様

2015年10月23日

金額 42380

但し 旅費として

上記の金額正に領収致しました

収 入
印 紙

請求 No.	20216
現金	✓
内 小切手	
訳 振 込	
相 殺	



JOY TRAVEL

ジョイトラベル 有限
〒811-3103 福岡県古賀市中央1丁目6-40
tel (092)943-1355
fax (092)943-1366

係 印



番号 1

請求書

請求書No.: 00020216-004-01
発行日: 2015.10.19

姉川 さつき 様

ツアー名: JAL往復航空券

出発日: 2015.10.28(水)

福岡県知事登録旅行業 第2種-380号

ジョイトラベル株式会社

総合旅行センター

〒811-3103 古賀市中央1丁目6番40号

TEL: 092-943-1355

FAX: 092-943-1366

責任者:

取扱責任者:

担当者:

このたびは弊社をご利用いただきまして誠にありがとうございます。下記料金のご請求を申し上げますのでよろしくお願い致します。

合計	控領り金額	ご請求金額
42,380円	0円	42,380円

No.	項目	単価	数量	金額	備考
1	JAL航空券(福岡⇄羽田)	42,380	1	42,380	

備考

お振込先

お振込手数料についてはお客様にてご負担下さいます様よろしくお願い致します。
2015.10.27(火)までにお振込み下さるようお願い申し上げます。

日程表

平成27年10月28日～30日

H27.10.28版

日時	日 程															
1日目 10/28 (水)	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">JR</td> <td style="text-align:center">地下鉄</td> <td style="text-align:center">飛行機</td> <td style="text-align:center">リムジンバス</td> <td style="text-align:center">バス</td> </tr> <tr> <td>古賀駅 +++</td> <td>博多駅 +++</td> <td>福岡空港 +++++</td> <td>羽田空港 +++++++</td> <td>海浜幕張駅 +++++</td> </tr> <tr> <td>6:33</td> <td></td> <td>7:45</td> <td>9:15</td> <td>市町村アカデミー</td> </tr> </table>	JR	地下鉄	飛行機	リムジンバス	バス	古賀駅 +++	博多駅 +++	福岡空港 +++++	羽田空港 +++++++	海浜幕張駅 +++++	6:33		7:45	9:15	市町村アカデミー
JR	地下鉄	飛行機	リムジンバス	バス												
古賀駅 +++	博多駅 +++	福岡空港 +++++	羽田空港 +++++++	海浜幕張駅 +++++												
6:33		7:45	9:15	市町村アカデミー												
2日目 10/29 (木)	市町村アカデミー															
3日目 10/30 (金)	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center">無料バス</td> <td style="text-align:center">リムジンバス</td> <td style="text-align:center">飛行機</td> <td style="text-align:center">地下鉄</td> <td style="text-align:center">JR</td> </tr> <tr> <td>市町村アカデミー +++</td> <td>海浜幕張駅 +++++</td> <td>羽田空港 +++++</td> <td>福岡空港 +++++</td> <td>博多駅 +++</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>16:10</td> <td>18:10</td> <td>古賀駅 19:25</td> </tr> </table>	無料バス	リムジンバス	飛行機	地下鉄	JR	市町村アカデミー +++	海浜幕張駅 +++++	羽田空港 +++++	福岡空港 +++++	博多駅 +++			16:10	18:10	古賀駅 19:25
無料バス	リムジンバス	飛行機	地下鉄	JR												
市町村アカデミー +++	海浜幕張駅 +++++	羽田空港 +++++	福岡空港 +++++	博多駅 +++												
		16:10	18:10	古賀駅 19:25												

番号 11

整理番号 524
領収書発行日 平成27年10月28日

領 収 書

姉川 さつき 様

¥3,600※

但し、研修費として。

研修科目：市町村議会議員特別講座Ⅱ（政策立案コース）

受講者氏名：姉川 さつき

入金日：平成27年9月11日

入金方法：銀行振込

千葉県美浜区浜田 1 - 1
公益財団法人 全国市町村研修財団
市町村職員中央研修所
分任出納役

番号 1

整理番号 526
領収書発行日 平成27年10月28日

領 収 書

姉川 さつき 様

¥2,250※

但し、研修生活動費として。

研修科目：市町村議会議員特別講座Ⅱ（政策立案コース）

受講者氏名：姉川 さつき

入金日：平成27年9月11日

入金方法：銀行振込

千葉県美浜区浜田1-1
公益財団法人 全国市町村研修財団
市町村職員中央研修所
分任出納役

番号 2

請求書

請求書No.: 00020329-001-01
発行日: 2015.11.11

姉川 さつき 様

ツアー名: ANA往復航空券+JR券

出発日: 2015.11.18(水)

福岡県知事登録旅行業 第2種-380号

ジョイトラベル有限公司

総合旅行センター

〒811-3103 古賀市中央1丁目6番40号

TEL: 092-943-1355

FAX: 092-943-1366

責任者

取扱責任者

担当者

このたびは弊社をご利用いただきまして誠にありがとうございます。下記料金のご請求を申し上げますのでよろしくお願い致します。

合計	お預り金額	ご請求金額
61,430円	0円	61,430円

No.	品名	単価	数量	金額	備考
1	ANA航空券(福岡⇄羽田)	52,680	1	52,680	
2	JR券(福島→東京)	8,750	1	8,750	

備考

お振込先
お振込手数料についてはお客様にてご負担下さいます様よろしくお願い致します。
2015.11.17(火)までにお振込み下さるようお願い申し上げます。

製品内を検索 | アプリ一覧 | リンク | 議会事務局 [インターネットメール]

[トップページ](#)
[メール](#)
[他市議会](#)
[メールの詳細](#)

<< 前へ | 次へ >>

第10回全国市議会議長会研究フォーラム 繰上げのご連絡

日時 : 2015/10/16(金) 9:14

差出人 : 【全国市議会議長会研究フォーラム】事務局 <jtb_shigikai@web-entry.net> アドレス帳に登録する

宛先 : <gikai@city.koga.fukuoka.jp>

第10回全国市議会議長会研究フォーラムin福島
ご担当者 各位

平素より大変お世話になっております。

過日お申込みいただきました、第10回全国市議会議長会研究フォーラムin福島への参加につきまして、キャンセル発生に伴い、繰り上げ参加または参加会場の繰上げを下記のとおり行いましたのでご確認をお願いいたします。

●各種手配の確認有無の欄に「有」とある方は、宿泊・交通・視察の手配について確認が必要な方です。個別の確認書（PDF）ならびにご案内文書添付しておりますので合わせてご確認ください。

●参加ならびに各種手配の申込お取消の際は、お手数ですが10月19日（月）17：30までに、
(株) JTB東北 地域交流・MICE（マイルス）事業部 MICEセンター宛にて、
「申込後の追加・取消・変更届」書面にて、メールでご連絡くださいますようお願いいたします。

(株) JTB東北 地域交流・MICE（マイルス）事業部 MICEセンター
shigikai2015fukushima@th.jtb.jp

ID	都道府県	議会名	姓 名	職名	申込別 区分	抽選 結果元	繰上げ 結果	各種手配の 確認有無
784-1	福岡県	古賀市議会	岩井 秀一	議員	会派	中継会場	⇒ 大ホール!	
784-2	福岡県	古賀市議会	高原 伸二	議員	会派	中継会場	⇒ 大ホール!	
784-3	福岡県	古賀市議会	姉川 さつき	議員	会派	中継会場	⇒ 大ホール!	

◆付記事項

本メールは、原則、議会事務局ごとにまとめてお送りしております。
一部、申込み単位で連絡担当が異なる場合は、担当者ごとにお送りしております。
キャンセルや宿泊視察の変更等のご連絡は、「申込後の追加・取消・変更届」にてお願いします。
当選者の氏名変更は一切お受けできませんのでご了承ください。
抽選結果に関するお問い合わせにはお答えいたしかねますのでご了承ください。

※このメールアドレスは送信専用です。フォーラムについてのお問合せは下記にお願いします。

(株) JTB東北 地域交流・MICE（マイルス）事業部 MICEセンター
「第10回全国市議会議長会研究フォーラムin福島」係 担当

TEL 022-208-5430 FAX 022-263-7481
E-Mail shigikai2015fukushima@th.jtb.jp
営業時間：平日 9時30分～17時30分

◀ メールへ

福島 → 福岡空港

探索順 第5/5経路

出発日 2015年11月19日(木) 乗り換え 3回 距離 1334.7km
 所要時間 4時間49分 (乗車237分 徒歩5分 他47分)
 往復金額 93,646円 (乗車券85,646円 料金8,000円) CO2排出量 119.0kg (乗車 224.2kg)

乗車券 |----- 9,500円 -----|

料金 |----- 8,000円 -----|
 (指定席・閑散期)

CO2 5.1kg 0.05kg

番線 14 20 16 4

17:01 18:36 18:47 18:53

福島	JR新幹線やまびこ148号	東京	JR京浜東北・根岸線・大船行	浜松町
16:50	JR新幹線やまびこ52号	18:24	JR京浜東北・根岸線	18:50
17:01	JR新幹線やまびこ148号	18:36	JR京浜東北・根岸線	18:53
17:01	JR新幹線つばさ148号	18:36	JR山手線外回り	18:54
17:16	JR新幹線やまびこ150号	18:48	JR京浜東北線	18:56
17:16	JR新幹線つばさ150号	18:48	JR山手線外回り	18:57
17:50	JR新幹線やまびこ152号	19:24	JR京浜東北・根岸線	18:59
18:16	JR新幹線やまびこ154号	19:48	JR山手線外回り	19:00
18:16	JR新幹線つばさ154号	19:48	JR京浜東北線	19:02
18:40	JR新幹線やまびこ218号	20:44	JR山手線外回り	19:03
19:16	JR新幹線やまびこ156号	20:48	JR京浜東北・根岸線	19:05

乗車券 |----- 966円 -----|
 (IC)

CO2 0.33kg

番線 2

19:01 19:22 5分

浜松町	東京モノレール区間快速	羽田	羽田空港
18:57	東京モノレール空港快速	19:16	徒歩
19:01	東京モノレール区間快速	19:22	
19:05	東京モノレール	19:29	
19:09	"	19:33	
19:15	"	19:39	
19:20	東京モノレール区間快速	19:42	
19:24	東京モノレール	19:49	
19:30	"	19:54	
19:34	"	19:59	
19:40	東京モノレール区間快速	20:02	

福島 → 福岡空港

探索順 第5/5経路

乗車券 | 75,180円
(前期適用運賃)

料金

CO2 113.4kg
番線

	<19:55>		<21:50>
	ANA 273 便		
羽田空港	19:50	JAL 335 便	21:45
	19:55	ANA 273 便	21:50
	20:00	スカイマーク 27 便	21:55
	20:00	スターフライヤー 55 便	21:55
	20:00	ANA 3855 便	21:55
			福岡空港